

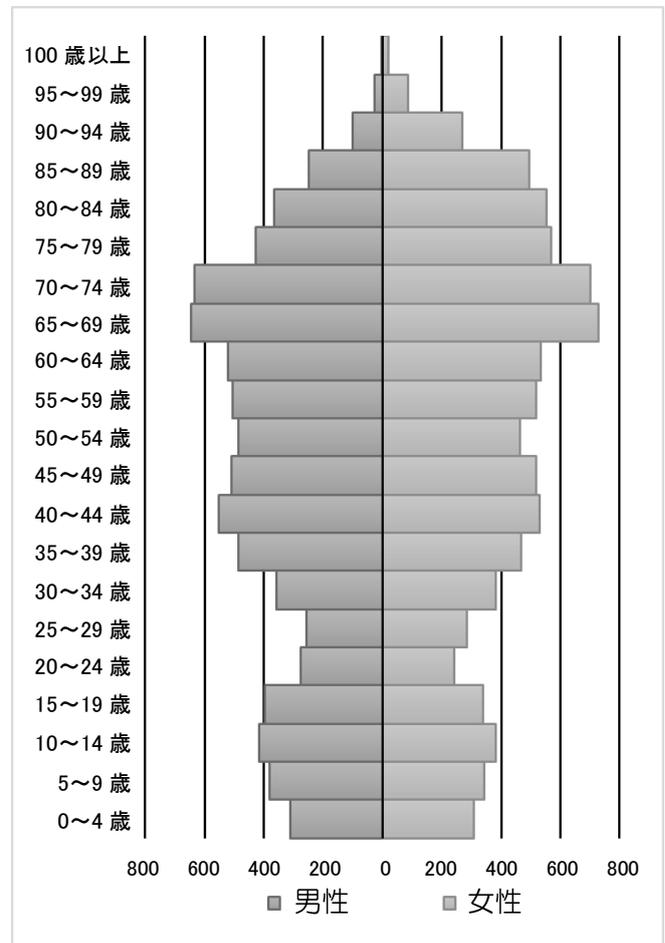
宇和地区

統計で見る地域の特性

人口	16,627
世帯数	7,638
(1世帯当たりの人数)	2.2
年少人口	2,139
生産年齢人口	8,542
老年人口	5,866
(うち75歳以上人口)	3,156
高齢化率(小数点第2位使四捨五入)	35.3
要支援認定者数	297
要介護認定者数	866
自治会数	79
サロン数(高齢者)	38
民生・児童委員数	50
(1人当たりの世帯数)	152.8

※ 特別養護老人ホーム(松葉寮・開明の杜)の人口は除く
(平成31年4月1日現在)

人口ピラミッド



(平成31年4月1日現在)

「地域福祉の将来像を考える住民座談会」

開催日	1回目 令和元年6月11日(火)	2回目 令和元年9月24日(火)
会場	西予市教育保健センター 4階 大ホール	



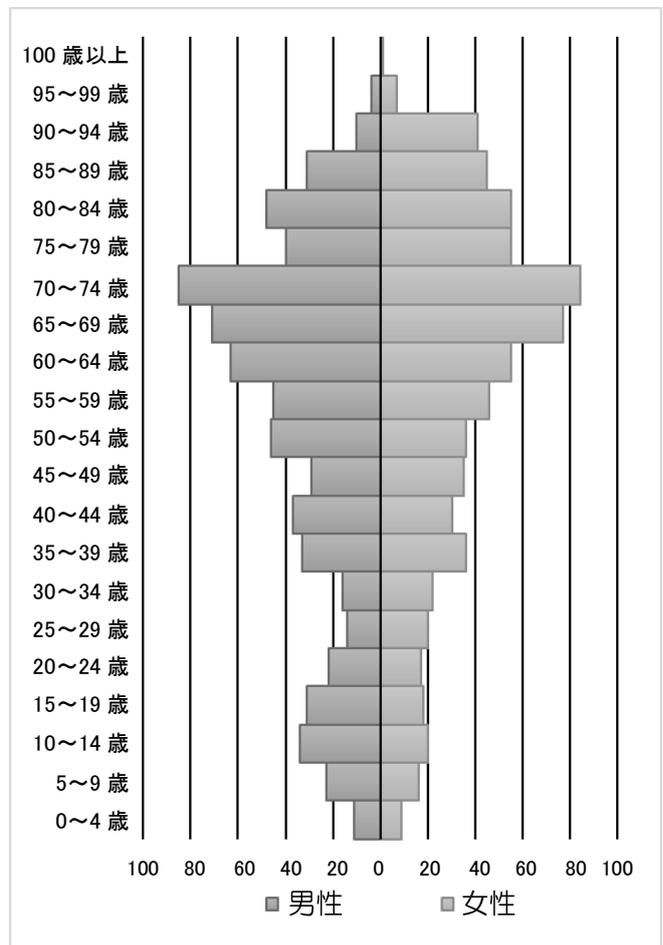
宇和町 多田地区

統計で見る地域の特性

人 口	1,418
世帯数	701
(1世帯当たりの人数)	2.0
年少人口	113
生産年齢人口	651
老年人口	654
(うち75歳以上人口)	337
高齢化率(小数点第2位四捨五入)	46.1%
自治会数	8
サロン数(高齢者)	4
っ民生・児童委員数	7
(1人当たりの世帯数)	100.1

(平成31年4月1日現在)

人口ピラミッド



(平成31年4月1日現在)

多田地区の良いところ

【産業・仕事・雇用】

- ・農福連携(いっとき館)
- ・農事組合法人で働き場所の確保

【健康・医療】

- ・ラジオ体操(毎朝)・卓球(週1回)・ヨガ
- ・高齢者向け健康教室(年1回)
- ・クロッカー大会・ディスコン

【地域活動・教育】

- ・老人会活動(月1回)老人会会報(年2回)
- ・小学生の田植え体験・稲刈り
- ・ふれあいサロン(3地区)
- ・食改活動(年5回)・小学生に読み聞かせ活動
- ・独居高齢者宅へ訪問(月2~3回)

【防災・安全】

- ・防災備品の準備が進められている
- ・青パト活動(小学生の見守り)

【生活環境】

- ・隣近所との支え合いがある
- ・粗大ごみを地区で集めている(収集に行く)
- ・だんだんプロジェクト(花植え)
- ・ぼかし肥料作り
- ・通学路の草刈りボランティア
- ・水がきれい(源流)

【その他】

- ・グループホーム活動への参加
- ・お酒作り

多田地区の課題

<p>【産業・仕事・雇用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店が少ない（高齢者が不便） ・農事組合法人の会員の平均年齢が70歳を超えて、仕事ができにくい <p>【健康・医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難聴者への声掛け（災害時等含む） <p>【地域活動・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館のバリアフリー化ができていない 	<p>【防災・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者の支援者が、高齢のため支援が難しくなっている <p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デマンドタクシーの周知が十分でない ・買い物弱者 ・空き家が多い <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化で自治会組織が弱体化している
---	--

これからの多田地区を考える

課 題	地域で行っていること	地域で出来ること	期間
・店が少ない （買い物弱者）	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売「とくし丸」 ・えひめ生協 宅配 	<ul style="list-style-type: none"> ・無人販売（野菜など） ・Aコープの充実 ・街中まで頼まれたら連れて行ってくれる人を作る 	1～2年
・災害時の要援護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップを作成 ・民生児童委員は、リストを持っている ・十人組が個別の状況を把握できている 	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者を防災マップに記載する 	1～3年
・高齢化による自治会組織の弱体化	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は、働いている人も出やすいよう夜にする ・誰でも区長や役員になれるようにした 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の体制を変える ・女性区長を作る ・サポート役を作る 	5年
・結婚していない人が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活イベントをやった（女性の参加が少ない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の同窓会と合わせて婚活イベント ・出会いの場を作る 	
・人口減少で行事ができない （※例 亥の子）		<ul style="list-style-type: none"> ・行事のコンパクト化 ・女性も積極的に参加できるようにする ・まとめられる行事は多田地区全体とする 	

社協からのコメント

多田地区は、地域活動（食改活動・読書会・手遊び会・天体観測会・原生林探検他）が充実している。地域の集う場（お宝）が多いことで、住みよい地域になっている。

小学生の見守り活動（青パト）が安心、安全な地域づくりになっている。また、要援護者の防災マップ作成をすることで、高齢者の見守り活動が活発になると思われる。

自治会組織の体制見直しによって、役員負担を減らすことが急務と思われる。

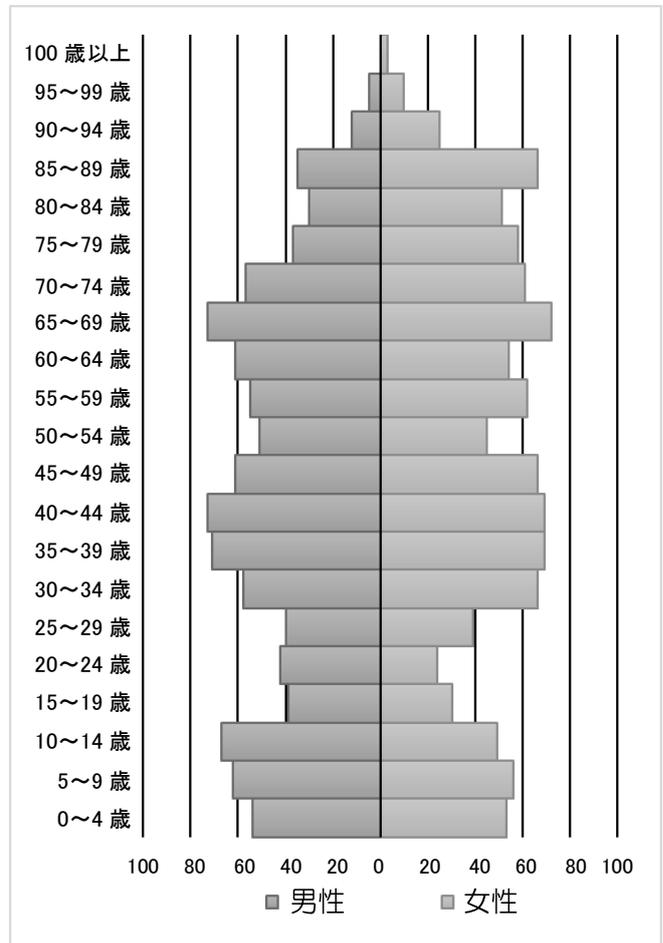
宇和町 中川地区

統計で見る地域の特性

人口	2,011
世帯数	865
(1世帯当たりの人数)	2.3
年少人口	341
生産年齢人口	1,075
老年人口	595
(うち75歳以上人口)	332
高齢化率(小数点第2位使四捨五入)	29.6%
自治会数	7
サロン数(高齢者)	5
民生・児童委員数	4
(1人当たりの世帯数)	216.3

(平成31年4月1日現在)

人口ピラミッド



(平成31年4月1日現在)

中川地区の良いところ

【健康・医療】

- ・クローカーを盛んにやっている
- ・病院が近い

【地域活動・教育】

- ・地区運動会、レクバレー大会がある
- ・夏祭りが一時衰退していたが、「壮年会」の活動により、また盛り上がってきた
- ・国道沿いの花いっぱい運動
- ・草刈りなどの地域コミュニティーを通じて、多世代間の交流をしている
- ・ふれあい・いきいきサロンがある
(坂戸・田苗真土・杵所)
- ・料理教室が盛んである

【防災・安全】

- ・自主防災組織がある
- ・壮年会がカーブミラーの清掃をしている
- ・独居高齢者が多く、役員さんが見守りや訪問活動をしている
- ・子どもたちの登下校の見守り活動(朝・夕)

【生活環境】

- ・救急車がよく通り、その音がよく聞こえる
- ・買い物には便利な地域
- ・坂戸は水がきれいだから蛍が出る

【その他】

- ・地域面積が狭いので、人とのつながりはあると思う

中川地区の課題

<p>【健康・医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護が必要になったときの老後が心配 ・通院時、行きは「デマンドバス」を利用するが、帰りはその時間が合わず、タクシーを利用するのでお金がかかる <p>【地域活動・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婦人会の解散 ・空所のサロンが消滅の危機にある 	<p>【防災・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険空家があり、子どもたちの通学が危ない <p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫茶店が無いので集まる場所がない ・飲食店が少ない ・お店が少なく、コンビニしかない <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興住宅に住む方のお名前が分からない ・組入りしていない人がいる ・区長の仕事が多い
--	--

これからの中川地区を考える

課 題	地域で行っていること	地域で出来ること
・車がないと生活できない		<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドバスの周知 ・行政へデマンドバスの利便性を高めるための働きかけ
・介護が必要になったときの老後が心配	<ul style="list-style-type: none"> ・クローカー等で健康づくり ・認知症の講習会に参加 ・地域と施設の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所での日々の見守り ・地域での見守り体制づくり ・民生児童委員や関係機関への連絡
・ゴミの分別ができない方もいる	<ul style="list-style-type: none"> ・回覧等で分別の呼びかけ ・地域で分別の張り紙作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋への記名の呼びかけ ・監視カメラの設置（ダミー可）
・婦人会の解散	<p>（婦人会が担っていたことを）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブに依頼 ・役員の家族に依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に若者の参加を呼びかける ・地域に存在する、気心の知れたグループに協力依頼
・危険な空き家があり、子どもたちの通学に危ない	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の方の見守り ・危険箇所のチェック ・行政へ危険空家の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な通学路を避けるため、通学路の変更を検討する

社協からのコメント

田園風景や新興住宅地などを併せ持つ、7つの自治会からなる広い範囲の地域である。国道56号線や県道八幡浜線が通っているため比較的交通の便も良く、加えて新しい住宅も建設されており、人口は増加傾向にある。また、各自治会とも「生活・居住・自然環境等」に特色があり、地域面積が狭い地域では「隣近所との繋がりがあがる」と認識している反面、別の地域では、「住民同士の顔の見える関係性が、やむを得ず希薄である」とも理解されており、福祉、防犯、防災等の観点からも今後の課題と考える。

そのような中、中川地区を挙げての運動会やレクバレー大会、各自治会での草刈り作業等を通じた「顔の見える世代間交流」も行っている。また、一時衰退していた夏越祭も「壮年会」の活動が実を結び、近年再び盛り上がってきているという明るい話題も多く聞かれた。

今後、「人口が増加傾向にある」という強みを活かした地域力で、課題解決に向けた取り組みに期待している。

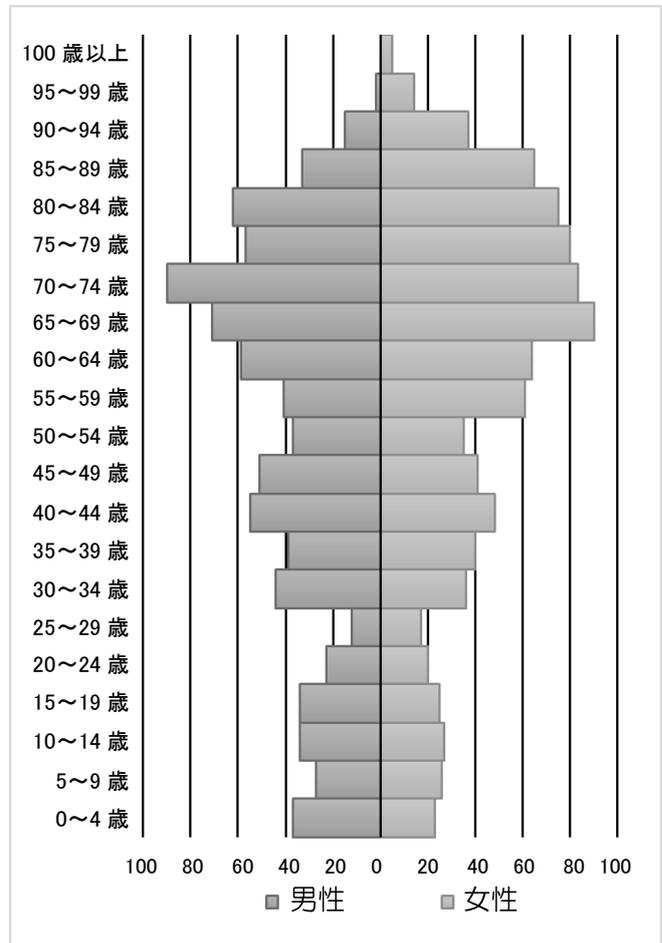
宇和町 石城地区

統計で見る地域の特性

人 口	1,735
世帯数	802
(1世帯当たりの人数)	2.2
年少人口	174
生産年齢人口	782
老年人口	779
(うち75歳以上人口)	445
高齢化率(小数点第2位使四捨五入)	44.9%
自治会数	5
サロン数(高齢者)	5
民生・児童委員数	6
(1人当たりの世帯数)	133.7

(平成31年4月1日現在)

人口ピラミッド



(平成31年4月1日現在)

石城地区の良いところ

【産業・仕事・雇用】

- ・石城加工組合がある
- ・老人クラブが広報誌の小分け(配布)作業

【健康・医療】

- ・運動教室が、健康づくりに取り組む(クローケー、卓球、ヨガ、ノルディックウォーク等)
- ・食生活改善グループの活動が盛ん
- ・声かけ隊(認知症の見守り)の結成と勉強会

【地域活動・教育】

- ・れんげ祭り、ロマンの里の活動、祭り等芸能活動・文化を大切に受け継ぐ
- ・消防団、サロン、子どもの通学等、ボランティアの見守り活動がある

【防災・安全】

- ・各部落で自主防災活動を行っている
- ・山道作りで側溝等の掃除を実施

【生活環境】

- ・広大な石城平野の景色がきれい
- ・盆地で災害が少ない
- ・美土里ネット、老人クラブ、地区で草刈り、花壇の整備、神社の清掃の環境整備を行う
- ・ツル・コウノトリが飛来

【その他】

- ・顔見知りで声かけがしやすい地域
- ・高齢者の手伝い(草刈り等)をしている

石城地区の課題

<p>【産業・仕事・雇用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の人手・後継者不足 ・若者が働く職場がない <p>【健康・医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりの成人、家から出られない高齢者が心配 ・将来、認知症や病気になった時、車に乗れなくなった時が心配 <p>【地域活動・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区役員のなり手がない ・日赤奉仕団の解散、婦人会、老人会等がない ・自治会活動のできない人がいる 	<p>【防災・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災が個人情報の問題で活動しにくい ・空き家が増えている ・放置林が多く、大雨の時濁流となる ・災害のあった地域で今後雨が降ると心配 <p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の付き合いが薄れてくる ・高齢者の車の運転が心配だが、生活に必要な ・近くにバス停、買い物できる店がない ・ごみ屋敷に近い家や、ごみ出しの決まりの分からない人がある
---	--

これからの石城地区を考える

課 題	地域で行っていること	地域で出来ること
・災害等への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災で訓練（集会所で避難所運営や炊き出し） ・避難計画、災害時要援護者の台帳の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの設置 ・防災士を中心に継続的に防災計画に携わるリーダーの育成
・地域活動の担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担の見直し ・区長文書の仕分け等 ・小原…仕分け組織が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担必要 ・仕事と両立できる体制づくり
・交通が不便	<ul style="list-style-type: none"> ・魚屋の行商 ・個人商店での購入 ・コンビニ利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・あい笑のお弁当、宅配等、民間の宅配サービス利用 ・今後宅配等のサービス利用が必要
・近所づきあいが希薄になっている	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン（年5回）楽しみにされている。集まって話すだけでも良い ・ボランティアも交流になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成（地域の中で介護や医療に携わる人） ・日々の近所づきあいを基本に⇒助け合い・見守り

社協からのコメント

活発に意見が出されたのは、地域活動・教育について。伝統行事やお祭りを受け継いでいくとともに、消防団による見守り、サロンの運営やボランティアの協力、認知症見守りボランティアである声かけ隊、子どもの通学の見守りなど地域の団体が協力して、見守り活動を行っている。近所づきあいの希薄化が課題に挙げたが、サロン等の集まり等で顔を合わせる機会を持ち、ボランティアとして参加している若い世代にも交流が生まれ、次世代の地域活動の担い手の育成に繋がっている。石城地区は、5つの行政区からなるが、行政区ごとに取り組みの状況も違っている。他の区の良い取り組みについては、情報共有し、地域づくりに活かすことができると感じた。

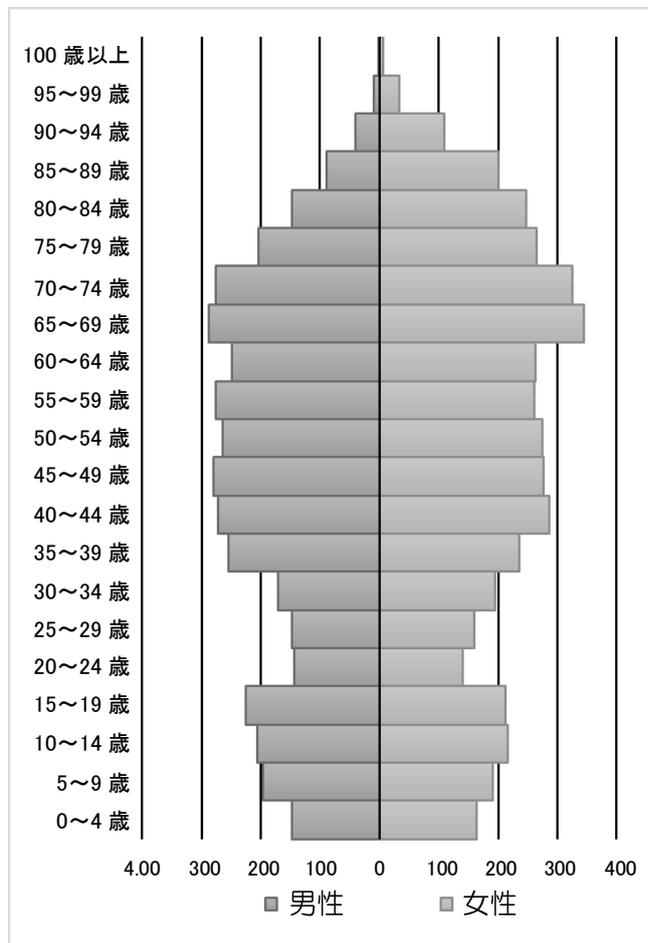
宇和町 宇和地区

統計で見る地域の特性

人口	8,292
世帯数	3,838
(1世帯当たりの人数)	2.2
年少人口	1,121
生産年齢人口	4,503
老年人口	2,588
(うち75歳以上人口)	1,355
高齢化率(小数点第2位四捨五入)	31.2%
自治会数	48
サロン数(高齢者)	14
民生・児童委員数	23
(1人当たりの世帯数)	166.9

※ 特別養護老人ホーム(松葉寮・開明の杜)の人口は除く
(平成31年4月1日現在)

人口ピラミッド



(平成31年4月1日現在)

宇和地区の良いところ

【産業・仕事・雇用】

- 商店街活動

【健康・医療】

- 高齢者の健康づくり(健康体操・クローカー・グランドゴルフ)
- 体育館や運動公園でスポーツを実施
- 病院が多く医療が充実している

【地域活動・教育】

- 毎月1回、サロンで交流している
- 粗大ゴミ等、高齢者や弱者のため、申し込みを受けて、区で手伝いをしている
- 地域づくり協議会の予算配分があり、各地区でイベントが実施されている

【防災・安全】

- 防災訓練、防災講習
- 消防団による地域内の点検整備

【生活環境】

- 高速のインターが近い
- 重要伝統的建造物群保存地区に選定された素晴らしいところが存在する
- 静かで、のんびりした生活が出来ている
- 年間を通して、多くの花を見る機会が多い
- 高齢者の福祉施設が多い

【その他】

- クリーン運動の折々、住民が各々協働作業をしている

宇和地区の課題

<p>【産業・仕事・雇用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型店の増で、地元商店の減 ・飲み屋以外のご飯屋が少ない <p>【健康・医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西予市民病院が遠い <p>【地域活動・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の世話役（役員）の成り手がいない ・何の活動も同じメンバー ・無関心な人が多い ・団地なので、中のつながりがほとんど無い ・子どもが少なくなり、活気が無くなってきた ・人口減少に悩む地域あり 	<p>【防災・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間、若い人がいない（防災） <p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活福祉バスが近くを通らずに、買い物等が不便な地域がある ・病院に行くのに、公共交通機関を利用できない人がいる <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者の孤独死 ・デイサービスやサロンに行かれず、行き場の無い人 ・独居高齢者など、粗大ゴミ等出すのが大変
--	---

これからの宇和地区を考える

課 題	地域で行っていること	地域で出来ること
・独居高齢者の孤独死	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員の見守り ・友愛会の活動 ・ふれあい郵便（婦人会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問班・見守り班等を地域で組織し、地域全体で見守る
・デイサービスやサロンに行けず行き場の無い人	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい郵便（婦人会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を出す（子どもからなど） ・見守り隊を組織する ・おしかけサロン ・空き家の活用
・生活福祉バスが近くを通らず買い物等に不便な地域がある	<ul style="list-style-type: none"> ・移動販売の利用 ・生協の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動による支援
・団地など、中のつながりがほとんど無い地域がある	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントの実施（地域のつながりの無い方へのコミュニケーションツールとして） 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントに参加してもらえよう積極的に声掛けを行う ・広報などを届ける際、声掛けを行ってコミュニケーションを図る

社協からのコメント

西予市の中心地で人口が多く、高齢化率も市内では比較的低い地域である。病院など医療機関が多く大型商業施設もあり、JRの駅や高速のインターがあるなど生活の利便性が良い地域でもある。しかし、転入者が多いなど地域の繋がり希薄化が進んでおり、また、他の地域に比べるとゆるやかであるが少子高齢化及び核家族化の進行により様々な諸問題も発生してきている。婦人会や老人クラブ、壮年会、愛護班など地域活動が盛んな地域であり、また、サロンや健康づくりの会など地域で『集い』の活動は活発に行われている。各団体の活動などを通して地域の繋がりを深め、課題の解決を図って頂きたい。

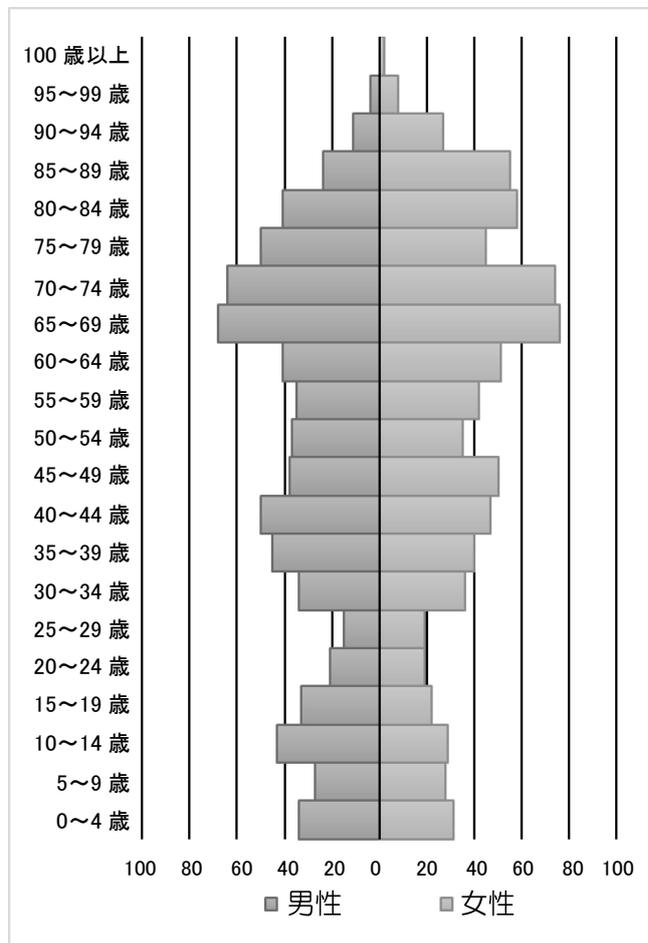
宇和町 田之筋地区

統計で見る地域の特性

人 口	1,509
世帯数	670
(1世帯当たりの人数)	2.3
年少人口	192
生産年齢人口	710
老年人口	607
(うち75歳以上人口)	325
高齢化率(小数点第2位使四捨五入)	40.2%
自治会数	7
サロン数(高齢者)	5
民生・児童委員数	4
(1人当たりの世帯数)	167.5

(平成31年4月1日現在)

人口ピラミッド



(平成31年4月1日現在)

田之筋地区の良いところ

【産業・仕事・雇用】

- ・米作り等、高齢者ではできなくなったところを次世代の若い方が請け負い、おかげで休耕田がない
- ・農業の仕事はたくさんある

【健康・医療】

- ・ヨガ体操や健康体操が活発

【地域活動・教育】

- ・地域の行事等に各団体等の参加協力がなされている
- ・いきいきサロン活動が活発

【防災・安全】

- ・地区防災活動をしている
- ・治安が良い
- ・児童見守りができている

【生活環境】

- ・水がきれい
- ・移動販売が来る

【その他】

- ・葬儀の際の助け合い
- ・おすそ分けの習慣がある
- ・水源に近いので米がうまい

田之筋地区の課題

<p>【産業・仕事・雇用】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 仕事はたくさんあるが、高齢化のため動ける（働ける）人が少ない <p>【健康・医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 医療にかかりたくても経済的に難しい <p>【地域活動・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> • いきいきサロンへの加入者が少ない • 老人会への入会者が少ない 	<p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 若い人が少ないため活気がない • 交通手段が乏しい • 高齢者世帯が多い • 子どもが少ない • 環境保全が難しくなる
--	--

これからの田之筋地区を考える

課 題	地域で行っていること	地域で出来ること
• 医療にかかりたくても経済的に難しい		• 隣近所で自家用車乗り合い（個人間において）
• 交通手段が乏しい	• 車での乗り合わせ	• 近隣でボランティアができる仕組みを作る
• 若い人が少ないため活気がない	• 地区盆踊り • 地区民運動会	• 世代間交流
• 老人会への入会者が少ない		• 加入促進 • 敬老会（地域行事）への参加を機に勧誘
• いきいきサロンへの入会者が少ない		• 加入促進

社協からのコメント

昔ながらのご近所さん同士の助け合いやおすそ分けの習慣があり、治安が良く、安心して暮らせる。水がきれいなため、お米がおいしい。高齢者ではできなくなったところを若者が請け負い休耕田がなく、地域での助け合い体制ができている。盆踊り、地区民運動会など地域の行事には、各種団体等の参加協力がなされており、敬老会、ふるさと芸能文化祭と共に4大行事として位置づけられ、毎年行われている。また、いきいきサロン活動やヨガ体操も活発に実施され、健康作りに余念がない。その一方で、若い人が少ないため活気を失い、地区全体が衰退している状況は否めない。若者の地域離れに拍車がかかり、高齢化を進める要因にもなっている様子がうかがえる。交通手段が乏しいという課題も上がってきているが、隣近所での自家用車乗り合いなど今後も高齢者にとって住みやすく生活に不便を感じさせない地域づくりの取り組みに期待している。

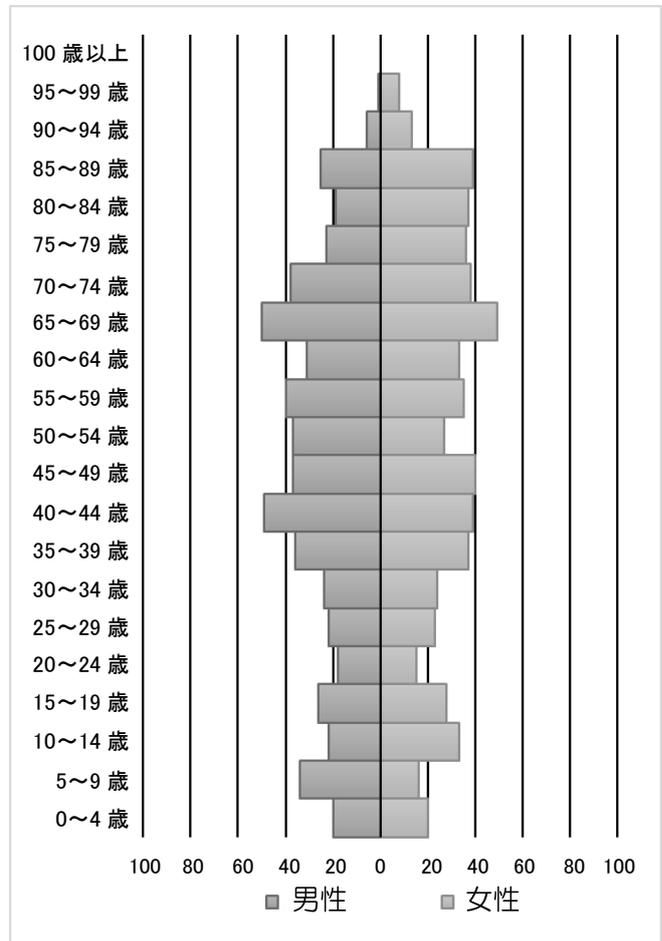
宇和町 下宇和地区

統計で見る地域の特性

人 口	1,148
世帯数	509
(1世帯当たりの人数)	2.3
年少人口	145
生産年齢人口	621
老年人口	382
(うち75歳以上人口)	207
高齢化率(小数点第2位使四捨五入)	33.3%
自治会数	3
サロン数(高齢者)	1
民生・児童委員数	3
(1人当たりの世帯数)	169.7

(平成31年4月1日現在)

人口ピラミッド



(平成31年4月1日現在)

下宇和地区の良いところ

【産業・仕事・雇用】

- ・ぶどう作りが盛ん

【健康・医療】

- ・医療機関が比較的近い
- ・健康講座に講師を呼んで、講話をして頂いている

【地域活動・教育】

- ・婦人会による、ホウ酸団子作り
- ・講中[※]の助け合い
- ・五つ鹿踊りを行っている
- ・高齢者の買い物の手伝い
- ・婦人会や民生児童委員が弁当の配食を行っている

【防災・安全】

- ・災害時、高齢者の安否確認をできるようになっている
- ・毎年、防災訓練を行っている
- ・青パト隊による見回り

【生活環境】

- ・インフラ、ライフラインの整備がよい
- ・高速の入り口が近い
- ・道づくり活動への参加

【その他】

- ・子どもたちが元気
- ・地域の住人が声をかけ合って協力している

※ 講中…村落社会における葬儀執行のための近隣組織

下宇和地区の課題

<p>【産業・仕事・雇用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化と後継者不足 ・耕作放棄地が増加している ・お店が少ない <p>【健康・医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区で行われている、集団検診の受診者が年々減っている <p>【地域活動・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブに加入する方がいない ・役員のなり手がいない ・地域行事の参加者の固定化 ・子どもが少なくなり、伝統行事が消えていく 	<p>【防災・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険家屋（空家）がある ・避難所が遠い ・急傾斜地など危険箇所が多い <p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のゴミ出しが難しい ・荒れた墓地が増えている <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢化が進んでいる ・高齢者の連絡不要が多い ・子どもが少なくなり、今後を思うと大変に思う
--	--

これからの下宇和地区を考える

課 題	地域で行っていること	地域で出来ること
・高齢者のゴミ出しが難しい	・見かけた時や、気づいた時には手伝っている	・まずは家族が手伝う ・頼まれた時や、見かけた時にはこれからも手伝う
・避難所が遠い	・発災時、集会所を一次避難所、公民館を二次避難所 ・避難が困難な方に対しての担当を部落ごとに決めている	・近所の助け合いを強化する
・子どもが少なくなり伝統行事が消えていく	・行事の回数を減らして対応している	・老人クラブが手助け
・老人クラブに加入する方がいない		・名称の変更を検討する ・趣味の会をまき込みたい
・耕作放棄地が増えている	・年に2回の道作り（草刈り） ・耕作放棄地の利用（青パパイヤづくり）	・耕作放棄地を借入 ・青パパイヤ栽培

社協からのコメント

生活環境では、高速の入り口や医療機関が近くにある点や、インフラ・ライフラインの整備が良いところから暮らしやすい地域である。地域の住民同士では講中[※]や、高齢者の買い物の手伝いを協力して行っている。また、災害時にも近くに住んでいる高齢者の安否確認をするなど、住民間の助け合いの関係性が築かれている。一方で、農家の高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加や、少子化による伝統行事の消滅などが課題となっている。今後、地域で行っていくことを考えたが、住みやすい地域性や住民間で行っている助け合いの力をより深め、活用することが課題解決に繋がると感じた。

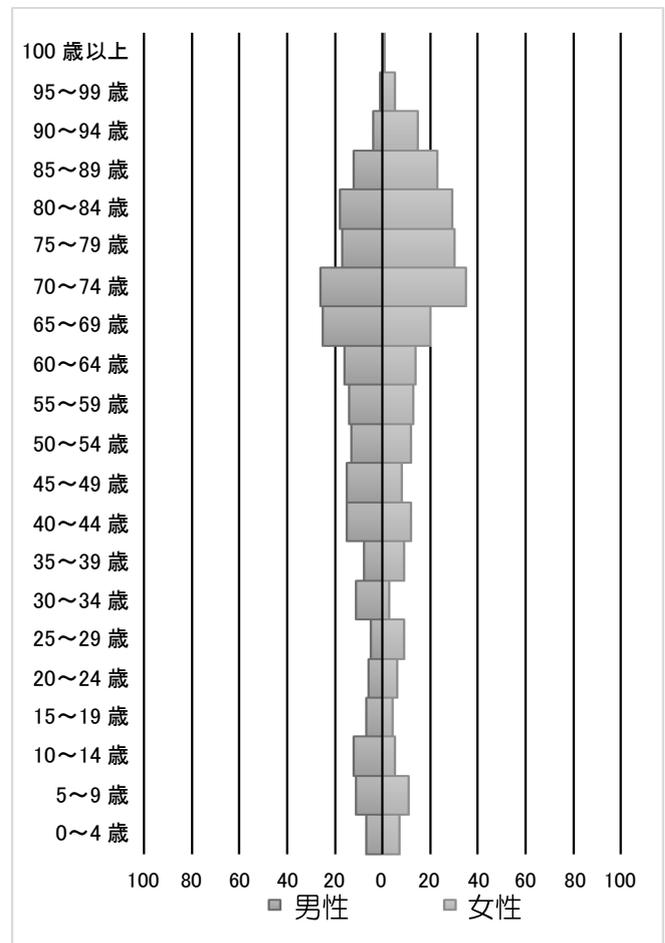
宇和町 明間地区

統計で見る地域の特性

人口	514
世帯数	253
(1世帯当たりの人数)	2.0
年少人口	53
生産年齢人口	200
老年人口	261
(うち75歳以上人口)	155
高齢化率(小数点第2位使四捨五入)	50.8%
自治会数	1
サロン数(高齢者)	4
民生・児童委員数	3
(1人当たりの世帯数)	84.3

(平成31年4月1日現在)

人口ピラミッド



(平成31年4月1日現在)

明間地区の良いところ

【産業・仕事・雇用】

- ・自営業が多い
- ・地域の商店がある
- ・事業系に関しては明間にないものはないといわれている。伝手もある

【健康・医療】

- ・健康体操・ヨガ教室
- ・ミュージックケア
- ・サロン活動

【地域活動・教育】

- ・伝統行事やお祭りが継承されている
- ・クローカーをはじめとする地域活動が活発
- ・地縁団体やNPOが活動している

【防災・安全】

- ・自助・共助ができている
- ・消防団が活発
- ・女性防火クラブがある

【生活環境】

- ・観音水、バラ園、桜と環境・自然に恵まれている
- ・温泉施設がある
- ・路線バスがある

【その他】

- ・まとまりがある(チームワークが良い)

明間地区の課題

<p>【産業・仕事・雇用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足 ・(明間) 出身者が帰るきっかけがない ・雇用が少ない <p>【健康・医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診率・受診率(が低い) ・独居・高齢者世帯(が多い) <p>【地域活動・教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人の人が複数の役を受けている ・役員の高齢化と若年化の両方へ向かっている ・セカンドライフ=地域の役になっている ・行事に参加する人が決まっている 	<p>【防災・安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・う回路が少ない(孤立する) ・仮設住宅再利用 <p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買物難民が多い ・免許が無いと不便 ・バスの便が少ない <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が少ない ・独身が多い ・子どもが少ない
--	--

これからの明間地区を考える

課題	地域で行っていること	地域で出来ること
<ul style="list-style-type: none"> ・独居・高齢世帯が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食サービス ・福祉の里基金を利用して婦人会・老人クラブが各戸訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動での配食サービス ・独居・高齢世帯へ生活情報はまとめて発信していく
<ul style="list-style-type: none"> ・買物難民が多い ・免許が無いと不便 	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーチケット配布 ・福祉バス ・デマンドタクシー 	<ul style="list-style-type: none"> ・(買物に行くのではなく) 移動販売が来やすい場所に集いの場をつくる(情報発信の場)
<ul style="list-style-type: none"> ・う回路が少ない(災害時に孤立する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・区・組・班単位で具体的な避難対応の取組をはじめた ・水・食糧の備蓄をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ隊のような取組を広げていく(見守りではなく声かけあう)

社協からのコメント

平成30年7月豪雨災害では大きな被害があった地区であり、避難指示により、多くの住民が応急仮設やみなし仮設に身を寄せている現状があるなか、顔の見える範囲で災害時に対応できる自助・互助の力を高めるための「声かけ隊」という取組を開始している。

自他共に認める地域のつながりの強い地区であるが、人口の減少や少子高齢問題が多く地域課題に影響している。

「免許が無いと生活を送るのに不便で買物難民が多い。」という地域課題の対応策として高齢者へのタクシーチケット配布等の取組をして来たが、今回の座談会では「行く」から「呼ぶ」へと発想転換をし「移動販売が来やすい場所に集いの場をつくらう。」と地域でできることを模索していた。

「強みである地域のつながりと柔軟な発想で地域課題を乗り越える。」そういった明間地区のさらなる取組に期待したい。